



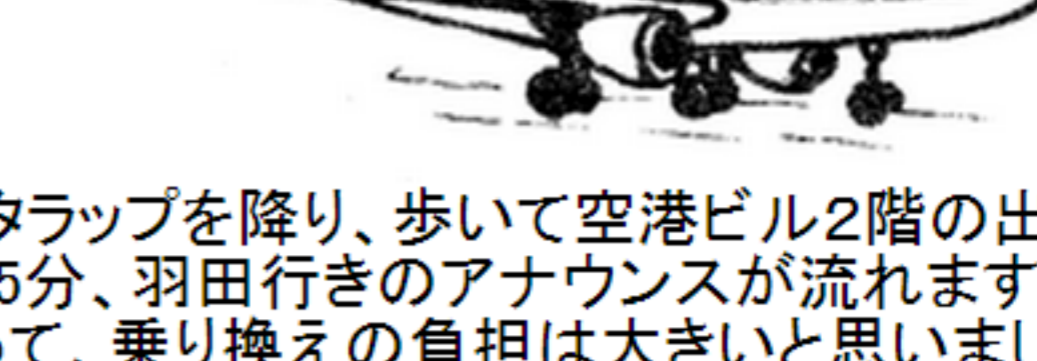
条件つき航空運賃の値下げは何をもたらすか

発揮された住民パワー

「運賃が下がって上京やすくなった」「この際頑張って友達呼ばなくちゃね」と声をかけられます。10月の利用者数は昨年実績を11.6%上回り、11月も今のところ昨年実績以上で推移しています。プラス万人推進室の取り組みと住民の協力が功を奏しているといえますが、月平均の17125人では達していません。全日空の出した条件は想像以上に厳しく、座席数が減り不便になったダイヤのもとで目標を達成させることは、容易ではないのです。しかし、今すべての住民が一人をクリアするために必死です。これからも利用者増をめざして住民パワーを全開させましょう。

大島経由便は使いにくい

先日、実際に体験してみたいと思い、大島経由便に乗ってみました。前日までに予約購入すれば10600円。この日は土曜日で20数人でした。八丈発11時45分発、12時20分に大島空港に着くと、いったん手荷物を持って機外へ出ます。タラップを降り、歩いて空港ビル2階の出発ロビーに移動、そう広くないロビーで待つこと約15分、羽田行きのアナウンスが流れます。雨のときは濡れるし、障害のある人や高齢者にとって、乗り換えの負担は大きいと思いました。12時50分大島を出発し羽田に着くのは13時20分(この日は出発が少し遅れ、羽田まで影響しました)。八丈ー羽田間の所要時間は合計で1時間35分。「2度と乗るか」「乗客をバカにしている」という声もあちこちで聞かれ、大島に用事がない限り乗りたくない、避けたい便であることを実感しました(後日、逆の羽田発大島経由便にも乗ってりましたが、八丈までの乗客は6人でした)。



暮らしや産業に大打撃

この経路便によって起きた問題はさまざま。まず予約手続きの煩雑さが増したこと。顧客の質問に対する応対や解約時の複雑な仕組みの確認などに、多くの労力が費やされています。

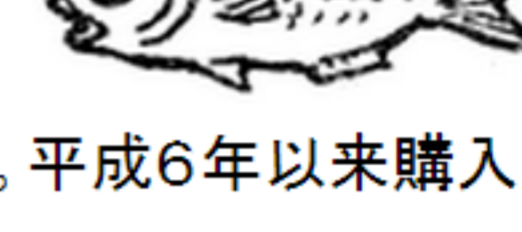
また、「羽田から45分」が大島の魅力のひとつ。観光客もわざわざ2時間近くかかる便は選ばないでしょう。旅行会社もこの便を避けて商品メニューを考えることになり、集客にも影響します。さらに、機種が変わったことで貨物事情も大きく変化しました。これまでは直積みで小さなスペースも有効に使えたのに、A320はコンテナ貨物なので融通がきかず積み残しが出ます。まして大島経由便では小さな機種に変わるのでなおさらです。積載量は大幅に減少しただけでなく、荷物が届く時間も変化したために、生鮮品を扱うスーパーの商品確保や鮮度にも大きな影響が出ています。仕入れの方法を根本から変えざるをえない飲食店もあるようです。花卉園芸農家、漁業関係者も出荷する時期や貨物量の調整に苦慮していると聞きます。しかも1、4便に使用されているA320は、種々の理由により遅延や機種変更があいつぎました。全日空は、八丈航路に習熟してれば問題ないと回答していますが、ダイヤ変更が島の暮らし全般に大きく影を落としています。このころは「元の航空運賃でいかに一日4便体制にもどしてほしい」という声さえ聞かれます。

住民の知恵と努力で使いやすいダイヤに

八丈町の交通アクセスは船と飛行機。港や空港の整備・拡張により船も航空機も大型化する一方、航空機は徐々に便数が減少しました。それに続くバブルの崩壊と不況。町の人口減少と観光の低迷。ついに航空運賃は高くなり、住民の生活を圧迫するようになりました。そんな状況を考えれば条件つき値下げは朗報に違いありません。しかしスタートしてわずか一ヶ月で多くの問題が噴出。大島経由便の問題を含め、町は独自の打開策をうちだす必要があります。11月4日と7日には協議文教委員会と全員協議会が開かれ、全日空と町の交渉の進捗状況が報告されました。議会は15日臨時議会を開いて全日空への要望書を決議し、21日には直接要望に出向きました。町もさらに毅然たる姿勢で交渉に臨み、議会も住民に不利のない条件を確保するために努力しなければなりません。

9月議会の論議の中から

● **漁協の保冷コンテナ** 一回に13基の出荷用保冷コンテナを使って魚を輸送しています。八丈と東京間を往復するのに3日かかるので、13×3+1=40基。1基の価格は約80万円。合計約3200万円。平成6年以来購入していませんでした。コンテナの数も増えこれで安定供給できます。



● **自動車リサイクル法施行** 自動車リサイクル法が施行されたものの、民間のリサイクル業者が廃車は引き取れないとのことで、町が引き受けることに。離島は運送費がかかるのでリサイクル協会が輸送費用の8割を、町が2割を負担することになりました。不法投棄がなくなるというですね。

● **観光振興策** 島に適した果樹を植えて観光振興に役立てようとの趣旨で、カブツとキンカン約2000本を植栽することに。数年後は「キンカンまつり」も。八形山の小屋周辺に植え、ジャムや果実酒などをつくる計画。苗木代320万円。また、町は赤石山であしたば農園のオーナー制度を始めます。1区画約3坪で年間5000円、100区画を募集します。産業観光課が独自に考えた観光振興対策だそうです。栽培管理委託料として80万円。意見は様々でしたが、結果が楽しみです。

● **子育て支援センターいよいよ稼動** 10月より富士見公会堂で子育て支援センターが活動開始。9時から4時半まで。職員1人パート2人の交代制。事業内容は、相談・親子広場・預託(4時間を上限として有料で預かる)です。国が進めている子育て支援対策を具体化したものですが、以前から要望がありました。内容的にはまだまだの感はありますが、第一歩を踏み出したことは評価できます。



● **乳がん健診の実情** 町は毎年乳がん健診を実施しています。触診による方法です。しかし最近ではマンモグラフィによる健診が一般的になっているそうです。町立病院にはマンモグラフィが使っていますが、国の規格に達していないとの理由で、健診には使えません。乳がんの発症率は2~30人に一人の割合。毎年200人以上の女性が受診しているのだからぜひ取り入れるべきです。

9月議会一般質問(2005年9月7日)

1. 町のヤギ対策の現状について

小島のヤギ駆除は足踏み状態と聞いています。一方、八丈富士で野生化しているヤギが最近増えているそうです。町はこの状況をどのように考え今後どう解決していくのか、ヤギ対策全般についてお尋ねします。

- (1) 小島と八丈富士のヤギの捕獲状況を、具体的数値で示してください。
- (2) 小島と八丈富士のヤギの捕獲・処理費用はそれぞれどれくらいですか。
- (3) 今後のヤギ対策についてどのような展望をもっていますか。また観光産業としてのヤギの多角的利用について、どのような施策を考えていますか。

産業観光課長 小島のヤギは現在まで12頭、八丈富士では1頭捕獲している。処理費用はこれまでの積算で推測するしかないが、1頭あたり6万円くらい。八丈富士の場合はこれと単純に比較できない。小島の場合は銃器の使用ができるよう準備をしているが、今年度には捕獲することは難しいかもしれない。ヤギの観光利用については、ヤギ食肉振興会の補助があり、これで10月からヤギ肉を観光客に提供する予定です。

(1) 小島のヤギは今年度12頭しか捕獲されていないとはびっくりです。毎年今年度は「捕獲する」と宣言しながら、この結果です。町はこの事態をどう受け止め、今後どのような対策を考えておられるのでしょうか。一方、八丈富士のヤギについては、捕獲は1頭です。住民から最近増えているという指摘がありながら、実態把握もしていないのです。すでに5~6つの群れが存在し150頭以上はいるという見方も、100頭はいないだろうという声もあります。いずれにしろそのまま放置すれば、農作物への甚大な被害が懸念されます。小島のヤギが解決しないまま新たな難問を抱えることになります。動物の駆除は、対象がなんであれ、非常に困難な作業です。外来動物の被害に苦しむ多くの自治体の取り組みをみればそれは明らかです。小島の場合は急峻な地形であるためなおさらです。しかし、なおやはり高額な税金を投入している以上、費用対効果を常に意識して事業をすすめてほしいと私は思います。

(2) これまでの駆除実績から1頭あたり捕獲・処理費用を概算すると小島の場合は6~8万円でした。一方、八丈富士の場合は、1頭あたり5000円の謝礼が出ていたと聞いています。小島の場合は、急峻な地形である上に船で現場まで行くという作業工程が加わるとしても、両者のコストはあまりに違います。わなや網を仕掛け、見回り、回収し、処理する作業全体を考えると、費用はもっとかかると思われる。作業に見合った謝礼を考えると良いでしょう。捕獲は経験が重要です。経験豊富な方に協力してもらって、手早く確実に捕獲する必要があると思います。役場の職員だけで対処するのがいいの、専門家にゆだねるのがいいのかについては、ヤギ検討会を開くなどして議論すべきなのではないでしょうか。猟友会、畜主などヤギの生態を熟知した人の意見を十分に取り入れるべきだと思います。

(3) これまで何度か議会でヤギの食肉利用について取り上げられ、町長も前向きな姿勢を示されたことは嬉しく思います。しかし具体的な施策となると、今の答弁のようにイベント中心の場当たりてきな対策に終始しているように思います。高温多湿な八丈の気候風土には、牛よりもヤギが適していると酪農家は指摘します。町は、長期的視点に立ち島の畜産業を掘り起こすつもりでヤギ肉・ヤギ乳・チーズなどの多角的活用を考えてほしい。具体的にはイベントだけでなく年間を通して住民や観光客が日常的に食べられる条件をつかっていくことです。まず、資料集めから始めて「ヤギ研究会」のようなものを作たらどうでしょう。

再質問 (1)(2) ヤギ検討会を早急にひらき、小島と八丈富士におけるヤギ駆除対策の展望を示し、それに沿って実行する考えがありますが、今後は費用対効果の視点に立って住民にわかりやすい情報提供してほしいと思いますが、どうですか。

産業観光課長 10月中旬に検討会を開くつもりです。捕獲に関する情報はなるべく住民に提供していきます。

再々質問 小島のヤギの駆除は当初マスコミ報道もされた経緯もあり、全国的に注目されている事業です。漁業にも影響は出てきます。きちんとやり切ってください。

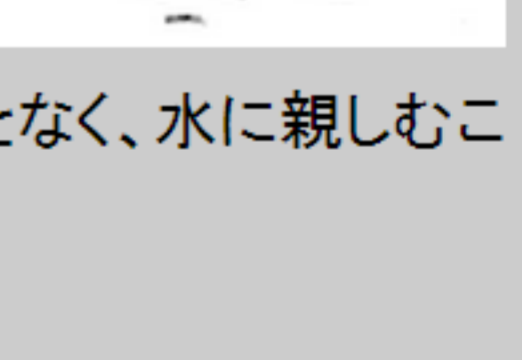
有害駆除動物の活用で参考になる事例は、北海道のエゾシカです。道内には駆除したエゾシカを食肉利用する動きがでていますが、「駆除した鹿の肉だけでは安定供給が難しい」といって、牧場をつくり、一定期間飼育し、食肉として供給しているのです。食肉処理場や販売会社もついています。全国的に販売する動きもあり、すでに東京のレストランと契約もしているそうです。エゾシカは北海道だけのブランドなので必ず売れると意気込んでいるそうです。」先日羽田でエゾシカ肉の缶詰を買ってきました。

町の場合、まずは島でヤギを食べる機会を増やすことだと思っています。数年前のヤギ肉販売はうまくいかなかったけれど、工夫次第です。食文化の伝統を継承しながら新たな産業をうむ事業に、町は力をいれるべきだと思いますが、町長はどうお考えでしょうか。ヤギ駆除の「覚悟と決意」を明らかにしていただくこと、ヤギ活用についての感想をお聞かせください。以上で終わります。

産業観光課長 捕獲状況をみながら駆除の徹底をはかる。ヤギの利用も今後検討していく。

2. 温水プール建設について

3月議会で、温水プール建設の請願書が出され可決されました。しかし、その後の具体的な計画案がでていません。町の観光にとって最も障害になるのが高い航空運賃と不安定な天候であり、以前から外出できない場合の観光客対策が望まれていました。一方、町も高齢化が進み、それに付随して医療費が増え続け、医療費を減らすためにも、住民が健康づくりに参加できる施設が必要で。



温水プールがあれば、観光客も住民も季節や天候にかかわらず、水に親しむことができ、年齢にかかわらず無理なく運動ができます。

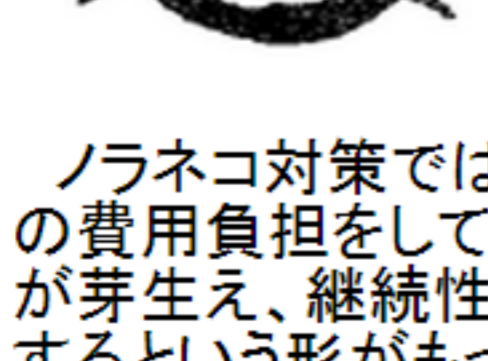
(1) 温水プール建設の具体案はありますか。

企画財政課長 現在具体的計画はないが、構想はある。屋根つきゲートボール場や屋内テニスコートなどを合わせて健康増進施設にする建設計画はありますが、厳しい財政事情を考えると建設時期は言えない。

再質問 今のところ建設計画はない、というお答えでした。私自身、温水プール建設は、住民との話し合いを重ね時間をかけて検討する必要があると思います。2年以上前から要望活動が活発化し、11番議員の協力もあってようやく請願書を出したという経緯があります。これからは「見えぬ」という「足湯」が、高齢者福祉と観光客対策にどれだけ効果があるかを確認し見つけたいと思っております。温水プール建設には十分に協議を重ね、住民が納得いくものにしていかなければならないと思っております。5番議員11番議員13番議員とともに私も発起人の一人になっておりますが、まずは「室内温水プール建設推進委員会」の方々と話し合いを進めていただきたいと思います。2. の質問は終わりだと思います。

ノラネコ問題の解決へ一歩ふみだす...ネコ会が活躍しています

3月議会で「地域ネコの問題と手術助成に関する請願書」が可決され、捨て猫をなくす会(以下ネコ会)がノラネコ対策を開始しました。町がネコ会に助成する額は30万円。ネコ会では、「周囲に様々な苦情があり、ネコが増え続けている場所」という基準を定めて、これに該当する場所から手術をはじめます。地域の人の話し合い・ネコの捕獲・病院への持ち込みと引き取り・元の場所にもどすという一連の作業は、すべてネコ会の役員が行なっています。



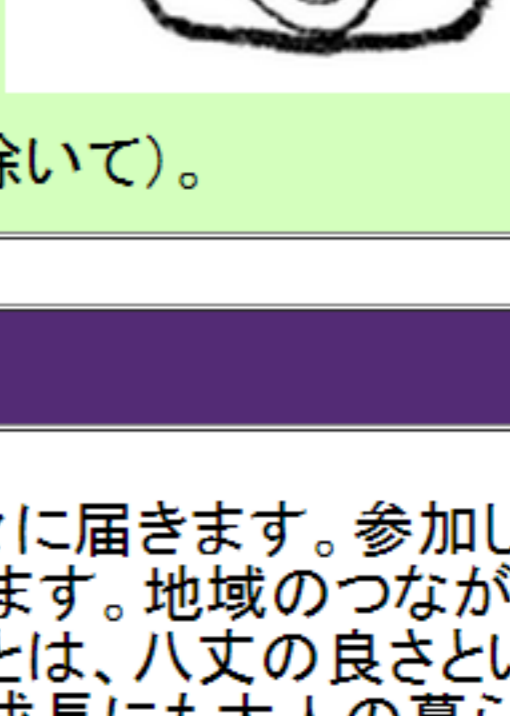
「飼い主がいらないネコ」の数は想像以上に多く、会の予算ではまかないきれないので、今年度はメスだけを対象にしています。すでに完了した場所では、「増えないから安心」と周囲の住民に喜ばれていました。解決できた場所はまだまだほんの一部に過ぎませんが、確実に活動の成果があがっています。

ノラネコ対策では、小笠原村・青ヶ島村・御蔵島村の場合、行政がほとんどの業務と全額の費用負担をしています。でも、行政に任せきりでは問題解決になりません。飼い主の自覚が芽生え、継続性が期待できるという点では、行政が市民のボランティア団体をバックアップするという形がもっとも望ましいと思います。だからこそ、町と会の活動は他の地域にも誇れる取り組みといえるでしょう。

この活動を支援しているのが島内外の会員。そして住民のあたたかい心遣いの募金や寄付です。先日、衆議院議員当選の挨拶に来島した元青ヶ島教育長、飯島夕雅氏も会の趣旨に賛同してネコ会の会員になりました。選挙区の北海道でもこの活動を広めたいとの抱負もいただきました。

ぶ・れ・い・く・た・い・む

婦人会では、数年前からマイバッグ推奨運動を進めています。私もこの運動に協力しようと思いつつも、つい持って出るのを忘れてしまし、徹底できませんでした。でも婦人会の人は結構使っているというのです。がーん!反省し、環境問題を取り上げている議員が実行できなくてどうするの...。私も奮起して2年ほど前から買い物袋を持つようになりました。このころは忘れることもほとんどなく習慣になっています(出かけた途中で買い物をするのを除いて)。



編集後記

秋になると行事が目白押しにやってくる、お誘いや招待状が次々に届きます。参加してみると、それぞれの分野でいろいろな活躍の場をもっていきたくて感じます。地域のつながりの大切さも実感します。そういふ活躍がごく自然に根付いていることは、八丈の良さといえるでしょう。今の都会にはないお隣さん同士のふれあいは、子どもの成長にも大人の暮らしにも大事だと思います。